

頑張る

農業法人

京丹波町橋爪地域で農業生産法人アグリチャンス京丹波株式会社を今年2月に設立した澤田敏夫さん(47)。7年前に米農家だった父親が亡くなり、脱サラして農業を引き継いだ。

同社は、水田が広がる旧瑞穂町の中心部に位置している。澤田さんの両親は、3畝の水稲生産と8畝の稲刈り中心の作業受託、さらにJAから8000箱の水稲育苗を受託してきた。

父が取り組んできた水稲育苗や農作業受託を、さらに規模拡大するため、法人化を決意。JA京都のTAC(地域農業の担い手)に出向くJA担当者などの支援を受け、家族経営型で同社を設立した。

こうした中、澤田さんも中学生のころから農業を手伝ってきたが、農業以外の仕事をしたいと大阪で就職し所帯を持った。10年後、家族でUターンして地元の会社で働くこととなったが、農業は休日にも両親の作業を手伝う程度だった。

法人化を機に自営のライスセンター利用者のニーズに因應するため、乾燥機、色彩選別機などを増設して高品質米作りを取り組む。今後、地域農業のけん引役として期待されている。

ところが7年前に父親が70歳で逝去し「ここで米作りをやめたら、農業を頼りにしてくれている人たちが困る。父が守ってきた田んぼを引き継ごう」と決意。会社を退職して就農した。

アグリチャンス京丹波(株) 京丹波町



地域農業の持続、発展を目指して法人経営に取り組む澤田さん

地域支える水稲経営

規模拡大で機械増設し質向上

込んだ特別栽培米5畝、20畝の作業受託、育苗は1万5000箱まで増やし半数はJAから受託する。会社設立に伴い、府の京の水産地づくり事業で色彩選別機や乾燥機、もみすり機を増設してライスセンターを充実させた。同社に米の乾燥・調整などを委託する農家からは「とてもきれいな米に仕上げしてくれる」と好評だ。

澤田さんは「旧瑞穂町全域に40畝を目標に農地を増やし、地域ごとに米の乾燥施設を設けて運営していきたい。また、米だけでなく年間を通じた生産を行うため、新たな品目を導入することも今後の課題だ。現在は学生の息子たちも夏休みにはよく手伝ってくれ、後継者として期待している」と話す。

しかし一からの米作りだった。父の作業日報を頼りに、JAの指導も受けて、育苗から収穫までを学んだ。

そして、地域農業を守るには家族経営では限界があると感じ、規模拡大のためには法人化が必要と決断。JAの指導を受けて今年2月に法人を設立。

現在、妻の友子さん(45)と親戚、知人の3人が取締役などに就いた。育苗や稲刈りなど多忙な時期には20人を臨時雇用する。

現在、もみ殻をすき531(澤田さんの携帯電話)。